

京大 おどろきのウイルス学講義



『京大 おどろきのウイルス学講義／宮沢孝幸／PHP新書／2021年』

<p>著者紹介</p>	<p>京都大学医生物学研究所 附属感染症モデル研究センター 准教授</p>
<p>本の内容</p>	<p>新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) がパンデミックに至り、2000年から数年にわたり世界中の人々が様々な側面で影響を受けました。社会生活での対応の変化も起こりました。この感染症の流行により多くの人々は、「ウイルス」「消毒」「ソーシャルディスタンス」「PCR」など、専門家でしか共有されてこなかった用語を知るようになりました。しかし多くの人々は、これらの用語を正確に理解しているでしょうか？これまでの生活を今一度振り返り、「ウイルス」について、できるだけ正しい知識を得て今後に備える必要があります。</p> <p>現在はパンデミックの状況ではありませんが、ではそれが収束して終わったのか？と問われれば、実は科学的には誰も答えられません。しかしウイルス増殖による将来的な疾病の流行は確実にやってきます。ウイルス全般を眺めると、病原性のウイルスは全体のごく一部で、病気を引き起こすどころか、哺乳類の進化を促したウイルスもあります。</p> <p>著者は、動物由来のウイルス進化の研究者です。「ウイルスとは何か」や「新型コロナウイルスのワクチン」などのテーマも解説しています。正しい知識で怖がり、これからの政治や周りの情報を正確に判断しつつ、マスコミなどの情報に悪い意味で影響されない姿勢を身につけて欲しいと思います。</p>
<p>こんな人に読んでほしい</p>	<p>全ての人たちに読んでもらいたい本です。 マスコミ情報に頼らず、自分の頭で、自分の理解で、他人の言動に流されない判断力を持って欲しいからです。</p>
<p>おすすめコメント</p>	<p>本書は京都大学で行なっている大学1～2年生向け講義の内容で、高校生物のレベルを意識して編集されています。</p>

配置場所は

[こちら](#)→



化学生命工学科／仲宗根 薫

